文化外国語専門学校 日本語教師養成科　　科目一覧

日本語教員養成科目

分野	科目名	学習項目	内容	★必須50項目	単位時間数
言語と社会・文化	**言語と社会１**	異文化接触と多文化共生	世界の人の動きとそれに伴う異文化接触と多文化共生について学ぶ。政府による外国人受け入れ施策、在留外国人数などの変遷をはじめ、目的対象別日本語教育や日本語施策、地方自治体の多文化共生に関する取り組み事例等について理解を深める。	1,2,3,9,13,31	31
		コミュニケーション	コミュニケーション能力、コミュニケーションにおける意図の伝達メカニズム、会話分析の視点や言語コミュニケーション上の失敗の原因を分析する視点、非言語のコミュニケーションの種類や機能、日本語の待遇表現について学ぶ。	10,11,12,45,47,48	
	言語と社会２　＊	日本語教育事情	日本語教育の歴史的変遷を学ぶ。また、近年の社会の多様化に伴う日本語教育の変化と状況を学び、現在どのような日本語教育が求められているのかを考え、さらには自身の日本語教師像を再構築する。	1,2,4,7,9,31	26
		言語と社会の関係	地域・職業・年齢などの日本語の位相と使用実態、日本語施策などについて学ぶ。また、CEFRと「日本語教育の参照枠」の理念や教育観を理解し、異なる文化・言語を持つ人々が共存する社会について理解を深める。	5,7,8,9,13	
	言語と心理１	異文化間コミュニケーション	異文化接触における問題・原因と心理的な変化について学び、異なる文化を持つ者同士の効果的なコミュニケーションに必要なスキルについて理解する。また、対人関係能力を向上させるために自らの思考や行動を客観的に観察する力を養う。	13,18,32,33,34,48,49,50	21
	言語と心理２	言語学習と心理	記憶や外国語習得のメカニズムや学習効果を高める方法について学ぶ。また、学習者の動機や不安などの心理的側面を理解し、学習者との信頼関係の構築や対話技術を実践的に学ぶ。	14,15,16,17,19,29	29
言語教育	**言語教育理論１**	日本語教育学概論	日本語教師に求められる資質・能力について学び、専門家としての役割を理解する。また、授業設計や学習目標の指針となる「日本語教育の参照枠」の概要を学ぶ。	5,20,21,23	42
		コースデザイン	学習者の希望やコースの目標に合わせた日本語教育プログラムの設計方法を学ぶ。各種調査の実施方法とシラバス・カリキュラムデザインについて、グループワークを通して実践的に理解する。	21,22,23	
		外国語教授法	外国語教授法の歴史的変遷と各教授法の特徴を、社会的背景とともに学ぶ。理論だけでなく、デモンストレーションやビデオを通じて実践的に理解し、現場での応用方法を考える。	24	
	言語教育理論２	言語教育と情報	著作権および授業とその準備に必要な機器やデジタルリソースの活用法を学び、著作権に配慮しながら教材を作成する。また、対面・オンライン授業における ICT 機器の効果的な使用方法を実践的に学ぶ。	35,36	38
		評価法	言語教育における様々な評価方法の特性と目的を学び、テスト作成、テスト分析や評価表作成を通して実践力を養う。また、授業改善につながる評価の活用方法を理解する。	6,26,30	
	日本語教育実践１	初級の指導	初級学習者に対する日本語指導のポイントと基本的な授業構成を知り、授業実践に必要なスキルを身につける。	25,27,31	41
		中上級の指導	中上級レベルの能力基準と指導の特徴を理解し、初級との違いを学ぶ。また、実際の言語使用場面で日本語が使えるようになるよう学習者の総合的な日本語力を高める「課題遂行型」の指導法について学ぶ。	23,27	
	日本語教育実践２	技能別指導	読む・聞く・話す・書くという四技能を伸ばすために必要な能力とストラテジー（方略）を理解する。また、各技能の目標設定と授業の組み立て方を実践しながら学ぶ。	14,25,27,46,47	52
		初級の授業計画	「日本語教育実習」を見据え、初級レベルの日本語教育を効果的に行うための具体的な指導法を学ぶ。教案作成練習、教材・教具の活用法や学習者との効果的なコミュニケーションしながら指導する方法を実践的に身につける。	12,22,25,27,29,50	

言語学・日本語学	**音声・音韻１**	音声・音韻　1	日本語教育の視点から、日本語のリズム、アクセント、イントネーション、フォーカスなどの韻律的特徴を学ぶ。また、学習者が直面しやすい発音の問題点を理解し、効果的な指導法を身につける。	29,40	22
	音声・音韻２	音声・音韻　2	日本語の音韻体系と音声学の基礎知識を学び、教育的観点から発音指導法を身につける。学習者の発音上の課題を分析し、適切な指導ができる力を養う。	29,40	23
	日本語教育文法１	日本語教育文法１	日本語教育における文法の考え方と体系を理解し、初級から初中級の文法項目について導入すべき項目や指導上の留意点を学ぶ。また、それらの項目について教科書等を分析し、実践力を養う。	39,43	40
	日本語教育文法２	日本語教育文法２	文法項目の意味・用法・形式を分析する手法を学び、教材研究や授業準備に必要な文法整理の技能を身につける。また、適切な例文選択や例文作成などの実践力を養う。	25,39,43	15
	言語学・日本語学１	言語学概論	言語の仕組みを理解するための基礎的な言語学の知識を学ぶ。日本語の特徴を他の言語との比較を通して理解し、教育実践に活かす視点を養う。	37	30
		日本語の表記	現代日本語の表記に関する規則や特徴を理解し、教育現場での指導に活かす方法を身につける。また、漢字・仮名の成り立ちの歴史的変遷を学び、日本語の音韻体系との関係を理解する。	5,39,41	
	言語学・日本語学２	語彙・意味	日本語の語彙的・意味的特徴を体系的に理解する。語と語の意味関係や語種、語構成などについて分析しながら理解する。また、効果的な語彙指導の方法について考える。	39,42,44	25
		対照言語学	日本語と他言語（特に英語・中国語・韓国語）の共通点や相違点を、文法・語彙・音声などの面から比較分析し、学習上で留意すべき点や学習者の母語別の指導ポイントを理解する。	38	

小計　435

登録実践研修科目

＊上記の「言語と社会２」以外の全ての科目に合格している者が受講することができる。

登録実践研修	**日本語教育実習**	留学生に対して教壇実習を行う。 実際の日本語授業見学、教材研究、授業計画の作成を経て、教壇に立って指導を実践する。本科目ではグループでの協働学習と実習後の振り返りを通して、成長し続ける日本語教師としての基礎力を身につける。	28	45**

**時間数45時間は一人当たり時間数で、受講生同士の授業準備や実践についての相互評価の時間を含めると、実質２倍程度の学習時間となる。

日本語教員養成科目＋実践研修科目の合計単位時間数　**480**

★「必須50項目」とは、文部科学省「登録日本語教員　実践研修・養成課程コアカリキュラム」で示されている日本語教師の養成段階に求められる「必須の教育内容」50項目のことを指します。

「420時間」以外の日本語教員養成関連科目

特別科目	日本語教員養成科目演習	日本語教員養成科目の課題、教材分析、資料作成等の作業時間で、個別に教員に相談をすることもできる。
	日本語教育実習演習	日本語教育実習の授業計画、教材作業、練習、及び他者の授業の観察・意見交換等の時で、計画や教材作成等の時間には個別に教員に相談をすることもできる。
	中上級模擬授業	日本語中上級用の教材を用いて、授業の計画、教材準備、および模擬授業と振り返りを実施する。
	養成科目補習授業	必要に応じて、日本語教員養成科目および日本語教育実習に関する作業、相談、または補講の時間を設ける。

日本語力が不足している者向けの科目*

***日本語教師としての正確な日本語の理解力、正しい運用力、豊富な表現力がまだ身についていない非日本語母語話者対象

日本語・日本文化基礎科目	日本語１	「日本語教育の参照枠」B2～C1レベル（中上級レベル）の日本語の読む力と書く力を養う。
	日本語２	「日本語教育の参照枠」B2～C1レベル（中上級レベル）の日本語の発話（やり取り）の力を養う。
	日本の地理・歴史	日本語教員養成科目の「言語と社会」を理解するために、基礎的な日本の地理と歴史について学ぶ。
	音声実技	日本語教員養成科目の「音声・音韻」で学んだ発音について、より自然な発音ができるよう練習する。
	その他	全て授業に関する相談や補習等

その他科目

特別科目（行事等）	ホームルーム	クラス内での相談、連絡等の時間
	校外学習	著名な観光地や博物館などを訪問し、日本の文化や歴史を体験的に学ぶ。
	文化祭	文化学園合同行事（毎年11月初旬）
	その他	学校行事、オリエンテーション、避難訓練、文化祭準備、日本文化体験等

文化外国語専門学校　日本語教師養成科　　年間授業履修スケジュール

分野		科目	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
言語と社会・文化	1	言語と社会１	異文化接触と多文化共生	コミュニケーション									
	2	言語と社会２								日本語教育事情	言語と社会の関係		
	3	言語と心理１				異文化コミュニケーション							
	4	言語と心理２						言語学習と心理					
言語教育	5	言語教育理論１	日本語教育学概論	コースデザイン	外国語教授法								
	6	言語教育理論２				言語教育と情報		評価法					
	7	日本語教育実践１		初級の指導	中上級の指導								
	8	日本語教育実践２					技能別指導		初級の授業計画				
言語学・日本語学	9	音声・音韻１	音声・音韻１										
	10	音声・音韻２				音声・音韻２							
	11	日本語教育文法１	日本語教育文法１										
	12	日本語教育文法２					日本語教育文法２						
	13	言語学・日本語学１	言語学概論	日本語の表記									
	14	言語学・日本語学２				語彙・意味			対照言語学				
実践研修	1	日本語教育実習							オリエンテーション	授業見学・準備・模擬授業	リハーサル教壇実習①	実習②・振り返り	
その他	・上記以外に適宜「演習」科目で教材分析、作成等の課題に取り組む時間を設ける。 ・日本語教員を目指す者としての日本語の理解・運用力が不足している場合、または希望する場合、「日本語・日本文化基礎科目」を受講する。								日本語教員試験（任意）				中上級模擬授業（420h外の科目）
	教員養成科目演習／補習		適宜										
日本語・日本文化基礎科目	1	日本語１											
	2	日本語２											
	3	日本の地理・歴史											
	4	音声実技											